

「木の話」

第4組 光澤寺 竹市 広幸

私の寺の境内には、直径約1メートルちょっとにもなるイチヨウの大木があります。

樹齢推定は約150年になり、秋になると大粒の銀杏を落とします。

昨年夏、そのイチヨウをぼんやり眺めていますと、ふと、こんな大きな幹を支える根っこはすごいものだなあと感じました。

それからよくよく考えてみますと、根っこがないと木は倒れます。幹がないと枝もつけられません。枝がないと葉っぱもつけられません。そして、葉っぱの先になる実もできません。生物学的に言えば細かな違いはあるのかもしれませんが、根や幹、枝葉などによって1本の木になります。

人に木の中で一番大事な所はどこかとたずねると、「根」と答える人は多いのではないのでしょうか。しかし、木にとってはそれぞれが互いになくてはならない存在です。根から水分を取り、太陽の光が当たるよう幹を伸ばし、枝をつけ、葉があることによって光合成をし、養分をとります。そして、新しい命である実（種子）を残します。それぞれに役割があって、それぞれが支え合っているように思えます。どんなに小さな葉っぱだとしても、木にとって無駄なものはありません。

「あなたのいのちが1（イチ）なら、わたしのいのちも1（イチ）です」

これは、私のお寺で貼り出していた法語です。これが仏教の基本的な考え方であり、私の好きな言葉です。大きさや能力、地位などではなく、それぞれの「尊さ」に気づいた

ときに、この言葉が響いてきます。きれい事のように聞こえるかもしれませんが、ぜひ

1本の木を眺めてみてください。